

大谷中学校ハチドリ計画・松枯れから大谷を守れ！

宮城県本吉町立大谷中学校 1年

岩槻和佳奈・佐藤朋実

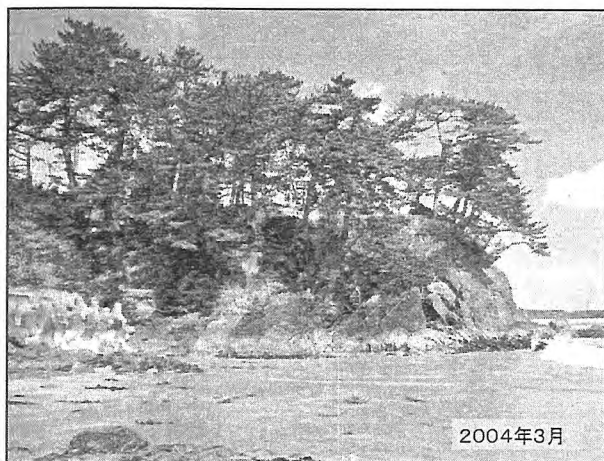
小山愛絵莉・齋藤利香

1 大谷と松枯れ

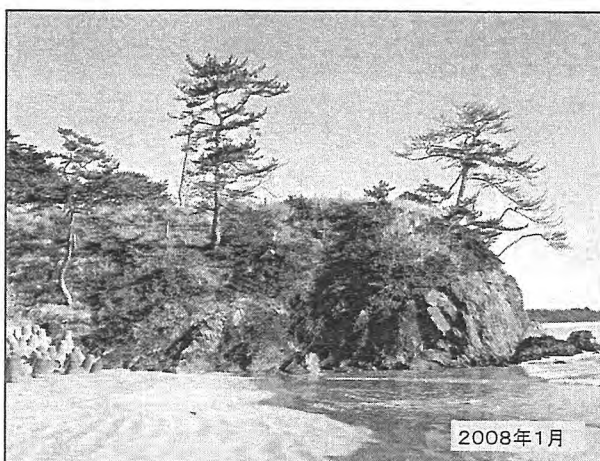
本吉町は宮城県の北部、気仙沼市に隣接する町です。

大谷には「白砂青松（はくしゃせいしょう）」の名にふさわしく、白い砂浜と青く茂る松林の美しい海岸があります。また、黒潮と親潮の二つの海流がめぐることから、四季おりおりで楽しめる豊かな海の幸に恵まれています。

このように自然に恵まれた大谷ですが、松枯れが発生してしまいました。その被害はすさまじい勢いで広がり、いまでは海岸の松がすべて消えてしまうほど深刻な状況にあります。



2004年3月



2008年1月

大谷中学校では、松枯れから大谷の自然を守ろうと、4年前から取り組みを始めました。毎年11月には、1年生が松枯れの現場を訪れて調査を行っています。私は、この時に初めて見たのですが、松の痛々しい姿に大きな衝撃を受けました。



2004年11月



ほとんどの松が枯れて白骨化しており、被害の深刻さは私たちの想像を超えるものでした。なぜ、このようなことが起こるのだろうか。どうすればこの松枯れから大谷を守ることができるのだろうか。こうして私たちの取り組みが始まったのです。

2 大谷中学校の取り組み

さて、大谷中学校で私たちが取り組んでいるのは、次の5つです。

① 松枯れ学習・現地視察

まず、松枯れ学習・現地視察では、専門の方々の指導を受けながら、松枯れがどのようなものか、松枯れを防ぐには何をしたら良いのか、について学んでいます。

② 植樹・松林清掃・下草刈り

松林を再生するために、生徒全員で植樹をしたり、松林の清掃をしています。さらに今年度からは、前の年に植えた松林の下草刈りをして、松が丈夫に育つように取り組んでいます。

③ 地域の人たちとの連携

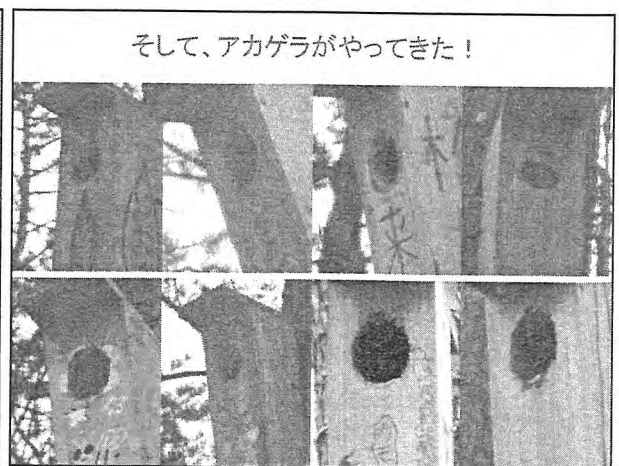
この取り組みは、私たちだけでは十分に行うことができません。そこで、地元の方や役場、森林組合、森林事務所など、地域の人たちと連携して取り組んでいます。

④ アカゲラの巣箱かけ

アカゲラの巣箱かけは、宮城北部森林管理署気仙沼森林事務所と共同で取り組んでいるものです。これまでに200個もの巣箱を設置しています。巣箱の1つ1つが手作りです。

アカゲラを呼んで松枯れを防止するという方法は、森林総合研究所東北支所で開発されたものです。アカゲラにマツノマダラカミキリの幼虫を食べてもらうことで、松枯れが広がるのを防ぐという方法です。アカゲラは、1羽でも5ヘクタールの面積を守ることができるそうです。

そして巣箱を設置したことで、アカゲラがやってきてくれました。残念ながら、アカゲラの姿はまだ見ていませんが、巣箱の入り口にはアカゲラが突いた跡がたくさんあります。



⑤ 森林と林業への関心と理解

この松枯れから、私たちが学んだことは、森林と林業について関心を持ち、理解を深めることの大切さです。松枯れは私たちが森林や林業について関心を持たなくなってきた結果でもあるからです。

3 なぜ松枯れが起こるのか

それでは、なぜ松枯れがおこるのでしょうか。

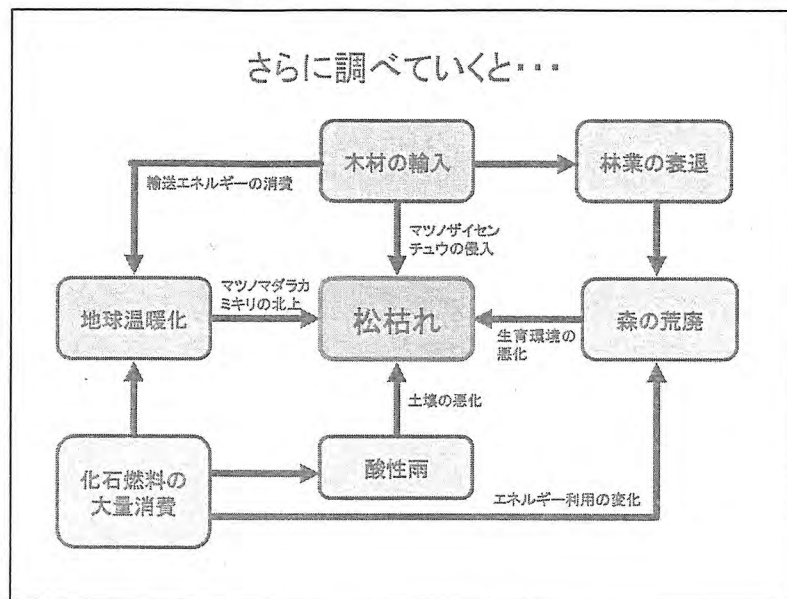
松枯れは、三十年ほど前にマツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリという二種類の虫が原因であることがつきとめられました。マツノザイセンチュウが松枯れを引き起こし、そのセンチュウをマツノマダラカミキリが媒介して松枯れを急速に広げています。

この二種類の虫について調べていくと、マツノザイセンチュウは輸入した木材から日本に入ってきたこと、そして、マダラカミキリは暖かい所を好む虫であることから、次第に北上して被害を広げていることもわかりました。

さらにその原因を調べていくと、二種類の虫だけでなく、さまざまな原因が複雑にからみ合っていることもわかりました。

図のように、地球温暖化は化石燃料の大量消費が原因です。そして化石燃料の大量消費は、環境を汚染し酸性雨をもたらします。酸性雨は土壌など植物の生育環境を悪化させ、これも松枯れの原因になっています。

また、エネルギーが石炭や石油の化石燃料に代わることで、木材が燃料として使われなくなり、森林が手入れをされず荒れてしまいます。



木材の輸入は、外国の安い木材が輸入されたために日本の木材が売れず、日本の林業を衰退（すいたい）させてしまいました。

そして林業の衰退が、さらに森の荒廃を進めることになってしまいました。森の荒廃は、樹木の生育環境を悪化させ、このことも松枯れにかかわっているようです。

さらに、木材の輸入は遠くから日本に輸送するために大量のエネルギーを消費します。これも地球温暖化に影響を与えることになります。

4 森林と林業の現状

松枯れの原因について調べていくと、いくつかの疑問が浮かんできました。

日本は、国土の7割が山林で、世界でも有数の森林国とされています。それでは、なぜ日本の木材を使わずに外国から輸入しているのでしょうか。

森林の供給量と自給率を調べてみると、昭和30年にはほぼ自給できています。その後、外国からの木材の輸入が急速に増えて、現在ではわずか20%にまで落ち込んでいるのです。

その原因として貿易の問題や日本の林業が抱える問題などが指摘されています。また、自給率を上げるための取り組みもされているものの、この問題を解決するのはとても難しいようです。

もう1つの疑問は、日本は豊かな山林に恵まれているのに、なぜ森林は荒れ、林業が衰えるのかということです。

林業に携わっている人たちの現状を見ると、その数は減り、高齢化が急速に進んでいます。最近では、若い人たちが増えていますが、それでも日本の国土の7割を占める森林を守っていくためには少なすぎるのではないのでしょうか。

私たちが習っている地理の資料集をみると、山の暮らしが不便であったり、林業のイメージよくないなど、林業が抱えている問題がよくわかります。若い人たちは都会に憧れ、田舎から出て行ってしまいます。

こうして、林業にたずさわる人たちが減っていったのです。

5 林業を元気にしよう

しかし、これも地理の資料集に載っていたグラフですが、これを見ると、森林が私たちの生活にとって、とても大きな役割をしていることがわかります。森林のはたらきをお金に換算すると70兆円にもなるそうです。この大切な役割をぜひ多くの人に知っていただきたいと思います。

そこで、林業を元気にするために何をしなければならぬのかを調べてみました。

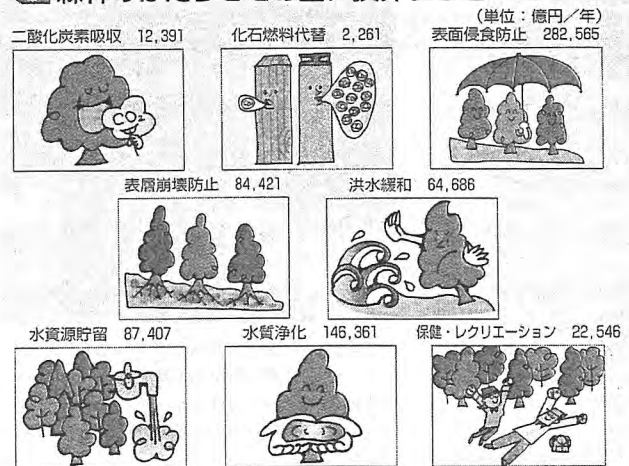
まず何よりも大切なことは、森の働きや林業の役割について、理解を深めるということだろうと思います。

また、林業の再生のために、ウッドマイルズやバイオマスというすばらしい取り組みが始まっていることも知りました。

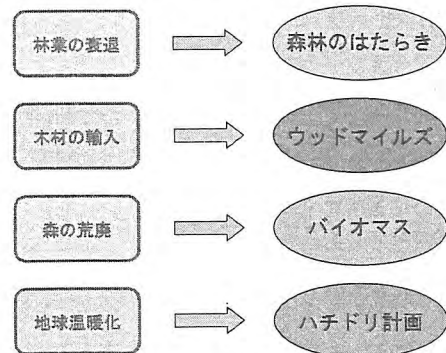
でも、これは私たちには難しすぎますので、大人の皆さんにお任せするしかありません。私たちはまだ中学生ですが、中学生の私たちでもできることはしようと思えました。

それがハチドリ計画なのです。

3 森林のはたらきをお金に換算すると



林業を元気にするには...



6 ハチドリ計画

松枯れとその原因となっている地球温暖化などさまざまな問題は、どれもがとても困難な問題です。でも、だからといって、何もしなくてよいわけがありません。

ハチドリ計画の「ハチドリ」というのは、南米の先住民に伝わる物語にちなんだものです。

森が大火事になり、森の生き物たちがわれ先にと逃げていくのですが、クリキンディとい

う名のハチドリだけは口ばしで水を一滴ずつ運んでは火を消そうとします。動物たちは「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑うのですが、クリキンディは「私は私にできることをしているの」と答えたのです。

このハチドリのように、私たち一人一人が「自分にできることをしよう」ということから、この「ハチドリ計画」が始まりました。

ところで、大谷では、松枯れだけでなく、海の中でも同じようなことが起こっています。それが磯焼けです。海の中の海藻が無くなり、ウニだけが大量に発生するという深刻な事態が進んでいます。この磯焼けもまた、地球温暖化や輸入、漁業者の減少という、松枯れと同じような問題を抱えているのです。

昨年4月に大谷海岸で松の植樹を行いました。この松が育ち、もとのような松林に戻るのは、私たちの子どもや孫の世代になってからだそうです。自然を壊すのは簡単ですが、一度壊れた自然をもとに戻すには、これだけの年月を必要になるのです。

1992年にブラジルで開かれた世界環境サミットで、セヴァン・スズキという12歳の少女がスピーチをしました。私たちと同じ年齢の子供が、未来に生きる子どもたちや、この地球に生きている多くの生き物たちのために、世界各国の指導者である大人たちの前でこのように訴えたのです。

「私たちは、あなた方の残した地球で生きることになるのです。どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。」

大谷の海岸には白く立ち枯れた松が悲しい姿をさらしています。この松の姿こそ、自然を壊し続けている私たち人間への警告なのかも知れません。この姿を私たちは真剣に受け止める必要があるのではないのでしょうか。

ハチドリ計画



あるとき森が燃えていました

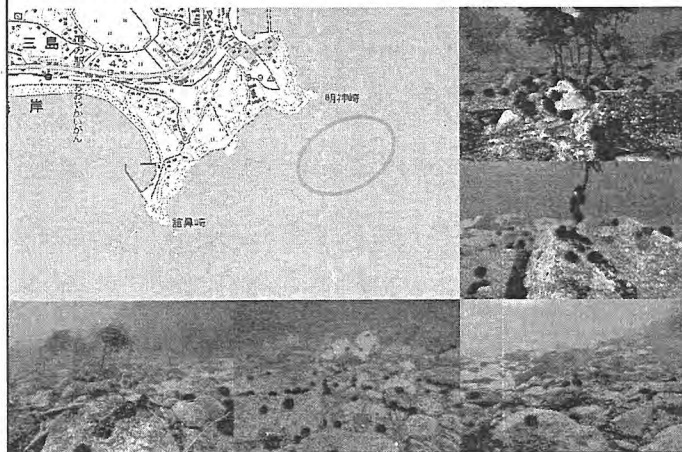
森の生きものたちは
われ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名のハチドリだけは
いったりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て
「そんなことをしていったい何になるんだ」
といて笑います

クリキンディはこう答えました
「私は私にできることをしているの」

大谷明神崎付近の磯焼け状況 (気仙沼水産試験場2005年)



松枯れは、
森からの警告